

昭和63年9月
1巻2号

日本口腔 インプラント学会誌

Journal of Japanese Society of Oral Implantology

インプラント誌

JJSOI

ISSN 0914-6695

1988

日本口腔インプラント学会

C-9. 上顎インプラントにレジングラムを

用いた1例

(KI 会)

佐藤 保信, 岩野 清史

渡辺 孝夫, 若生 清彦

上顎前歯部の歯牙が欠損すると一般に歯槽堤の低下と唇側部歯槽骨の吸収が起こる。

このような例にインプラントを施した場合、上部構造物の形態は患者自身によるネック部のメンテナンスが容易であると同時に、発音などの機能および歯頸部の形態確保が必要な条件である。この点について従来の上部構造物の形態をみると単純歯冠型、歯根露出型、歯冠延長型および歯肉付歯冠型の4型に分類された。しかしながらこれらはいずれも上記諸条件をすべて満足させるも

のではない。歯肉付歯冠型の1便法として歯冠部と歯肉部を分離し、歯肉部を着脱式にした方法がある。いわゆる着脱式レジンガムである。これはレジンガムを装着することにより歯頸部の形態が、自然かつ健康的になり、鼻翼部の陥凹を十分に補綴、空気もれがないため発音良好、食片の嵌入感が少ないなど、歯肉付歯冠型と同じ利点をもつと同時に、その欠点であるネック部の自浄性もレジンガムをはずすことによりブラッシングなどの保事が容易になることでカバーされる。従来は保定のためにクラスプやアタッチメントなどの連結装着を付与したものが多くが本例では口唇圧と歯冠歯頸部の嵌合機構を与えることによって保定を確保した。そのため、構造は単純で特別な連結装置がいらす、製作容易、また、患者自身による取扱いも簡単で上部構造物に無理な力が加わらないなど多くの利点があり、特に上顎前歯部歯槽堤の吸収程度の高度なものほど本法は有用ではないかと思われた。また着脱式レジンガムを製作するにあたり、上部構造物下面のアンダーカット部を正確に印象採取する必要があるので異種印象材による2ステップの印象法を考察した。